

# 城南家保ニュース R6. 8月号

熊本県城南家畜保健衛生所

〒868-0042 人吉市蟹作町 1237-1

TEL : 0966-22-3814

E-mail : jounankaho@pref.kumamoto.lg.jp

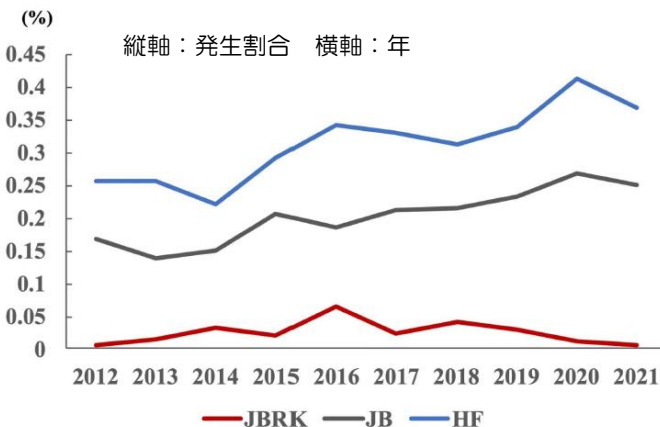
## 牛伝染性リンパ腫に係る研修会が開催されました

令和6年6月29日(土)、熊本市内において熊本県獣医師会農林水産部支部主催で、牛伝染性リンパ腫(EBL)をテーマに研修会が開催されました。

「褐毛和種における牛伝染性リンパ腫研究の成果について」と題し、東海大学農学部動物科学科の稲永敏明(いねながとしあき)先生を講師にお招きして講義していただきました。

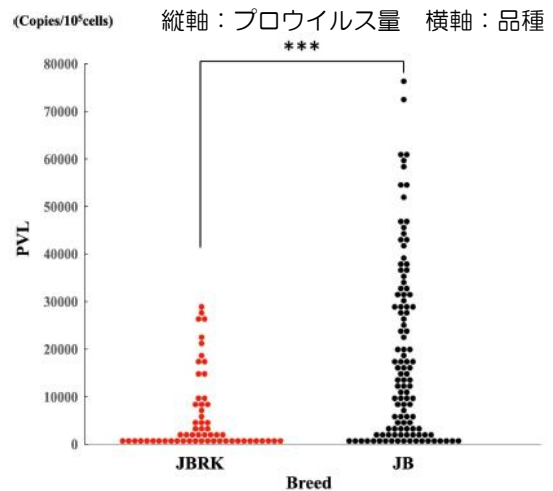
熊本県内で飼育されている**熊本系の褐毛和種牛は、ホルスタイン種や黒毛和種と比較して、飼養頭数比でEBL発生が少なく、EBLの原因となるウイルスに感染しても、体内で保有するプロウイルス量が黒毛和種より有意に少ないことが示されました。**

これまで、家畜保健衛生所の職員も「褐毛和種はリンパ腫を発症してEBLと診断・報告される頭数が少ないな」と感じていましたが、今回論文として承認・公表されました。大変興味深いデータで、今後より一層、褐毛和種に対する注目が集まりそうです。



飼養頭数に対する発生頭数のグラフ

JBRK：褐毛和種、JB：黒毛和種、HF：ホルスタイン種



品種別ウイルス量の比較

# 牛伝染性リンパ腫（EBL）対策について

EBLの感染・発症についての研究は、前段のとおり日々研究が進んでいます。肉用牛繁殖農場が多い城南家保管内においても、EBL対策に取り組む農家さんも増えています。

先日発行された、獣医学専門雑誌（「臨床獣医」6月号）に、宮崎大学産業動物防疫リサーチセンターの目堅博久（めかたひろひさ）先生の執筆で、EBL対策における初乳給与に関して最新の知見が掲載されていましたのでご紹介します。

## 低リスク母牛の産子は自然哺乳しても感染率が低い

・生後1か月間、出産した母牛の初乳と常乳を飲ませた子牛群と、初乳製剤や不活化処理した初乳を与えた群で比較調査した。

【結果①】感染状態が低リスクの母牛から生まれた子牛では、どちらの群もEBL感染した子牛は無かった。

【結果②】感染状態が高リスク・中リスクの母牛から生まれた子牛では、両群ともに約30～60%で感染がみられたが、感染率に哺乳方法の違いで差はなかった。

EBL感染牛のリスク分類		
プロウイルス量 (copies/10 <sup>5</sup> cells)		感染リスク
20,000 ≤		高
5,000 ≤	< 20,000	中
1,000 ≤	< 5,000	※ 低
< 1,000		※※ 超低

（数値は熊本県で実施するLTR法による測定の場合）

## EBL母子感染対策で重要なのは高リスク母牛への対応

この結果から言えることは、**個体ごとに母牛の感染リスクの把握が重要**という点です。

国のガイドラインに基づく基本的な対策を行う上で、母牛がEBLに感染していても**低リスクであれば、自然哺乳で産子を育成可能であり**、酪農家からの初乳の入手や不活化作業、初乳製剤購入など、労力や経済的負担の軽減が期待できるデータと考えられます。取り組んでみたいと思われましたら、かかりつけの獣医師を通じて家畜保健衛生所へご相談ください。

### 近隣諸国における海外悪性伝染病発生状況

病名	型	発生地（国）	畜種	発生年月日
高病原性 鳥インフルエンザ (HPAI)	H5N1	台湾	家きん	令和6年5月21日
		カンボジア	家きん	令和6年7月5日
		ブータン	家きん	令和6年7月10日
アフリカ豚熱 (ASF)		韓国	豚	令和6年7月2日
			豚	令和6年7月7日

令和6年(2024年)8月1日現在

### 家畜防疫員のヒトコト

あか牛はEBLに感染しても体内でウイルスが増えにくいという特性には驚きました。農場内で、EBL陰性牛と陽性牛、リスクの高い牛と低い牛を区分飼育する場合の目印（防波堤）として、あか牛を配置（あか牛はETで黒毛生産に）したらどうだろう?!と想像しています（M・K）